

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	通過率 (%)	備考	
4年 (2)ア(ア)	1	(1) 浄水場の働きを指摘している。	知・技	84		
4年 (2)ア(ア)		(2) 森林が「緑のダム」と呼ばれる理由を指摘している。	知・技	89		
4年 (2)イ(ア)		(3) 下水の処理と水の再利用について、適切な内容を指摘している。	思・判・表	85		
3年 (1)ア(イ)	2	(1) 鉄道が通った後の市の様子の変化について、資料から読み取り、指摘している。	知・技	75		
3年 (1)イ(ア)		(2) 資料から読み取った内容を関連付けて、人口の増加と鉄道の関わりを指摘している。	思・判・表	56	○	
3年 (1)ア(イ)	3	(1) 写真から読み取った土地の様子に適する地図記号を指摘している。	知・技	80		
3年 (1)ア(イ)		(2) 縮尺を使って、実際の直線距離を指摘している。	知・技	80		
3年 (1)イ(ア)		(3) まちの様子を説明するカードと地図を比較し、適切な内容の説明を指摘している。	思・判・表	83		
3年 (1)イ(ア)		(4) 地図の情報から、西側に人が集まっていると考えられる根拠を読み取り、情報を用いて説明している。	思・判・表	71	○	
4年 (4)ア(ア)	4	(1) 資料から、那須疏水がつくられた理由を指摘している。	知・技	74		
4年 (4)ア(イ)		(2) 資料から那須野原の高低を読み取り、箒川から水を引くことができない理由を指摘している。	知・技	52		
4年 (4)イ(イ)		3	A 2つの資料を読み取った情報を関連付けて、適切な内容を指摘している。	思・判・表	47	
4年 (4)イ(イ)			B 2つの資料を読み取った情報を関連付けて、適切な内容を指摘している。	思・判・表	42	
4年 (4)イ(イ)		(4) 2つの資料を読み取った情報を関連付けて、適切な内容の説明を指摘している。	思・判・表	35	○	
4年 (5)ア(イ)	5	(1) 資料から、条件に当てはまる八方位を指摘している。	知・技	62		
4年 (5)イ(ア)		(2) 等高線の間隔に着目し、条件に当てはまるコースを選んだ理由を説明している。	思・判・表	55		
4年 (5)イ(ア)		(3) 等高線の数値を読み取り、適切な断面図を指摘している。	思・判・表	61	○	
4年 (1)ア(ア)	6	1	① 吹き出しの内容を読み取り、県の西側にある平野の名称を指摘している。	知・技	71	
4年 (1)ア(ア)			② 吹き出しの内容を読み取り、県の中央にある湖の名称を指摘している。	知・技	85	
4年 (1)ア(ア)			③ 吹き出しの内容を読み取り、青森県の県庁所在地を指摘している。	知・技	82	
4年 (1)イ(ア)		(2) 2つの資料を比較・関連付けて、適切な内容の説明を指摘している。	思・判・表	38		
5年 (1)ア(イ)	7	1	上越 上越の気候の特色を表す雨温図を指摘することができる。	知・技	47	
5年 (1)ア(イ)			軽井沢 軽井沢の気候の特色を表す雨温図を指摘することができる。	知・技	31	
5年 (1)イ(イ)		2	①② 青森県の気候の特色について、資料を関連付けて読み取り、適切に指摘している。	思・判・表	58	○
5年 (1)イ(イ)			③④ 青森県の気候の特色について、資料を関連付けて読み取り、適切に指摘している。	思・判・表	61	○
5年 (1)ア(ア)	8	(1) 日本周辺の国旗や国について、適切でないものを指摘している。	知・技	72		
5年 (1)ア(ウ)		2	① 資料から、日本の領土について適切な範囲を指摘している。	知・技	58	
5年 (1)ア(ウ)			② 資料から、日本の領土について適切な範囲を指摘している。	知・技	4	
5年 (1)イ(ア)		(3) 資料から、我が国と近隣の国々との位置関係を適切に説明している。	思・判・表	66		

※備考欄の「○」は、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した問題。

評価の観点	知・技	思・判・表
通過率	66	58

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	備考	東青管内			西北管内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
①	(1)	浄水場の働きの指摘		83	84	77	81	77	88	81	
	(2)	「緑のダム」と呼ばれる理由の指摘		88	88	88	90	90	88	91	
	(3)	水の循環についての指摘		85	85	83	88	88	91	85	
②	(1)	市の様子の変化についての指摘		75	75	76	80	82	79	79	
	(2)	人口と交通の変化についての指摘	○	55	55	57	53	52	56	53	
③	(1)	土地の様子に適する地図記号の指摘		81	81	84	80	80	84	76	
	(2)	縮尺を使った実際の距離の指摘		81	81	84	78	77	87	74	
	(3)	地図から分かる様子の指摘		84	84	82	83	80	89	82	
	(4)	人が集まっている理由の説明	○	70	70	71	69	71	85	58	
④	(1)	人々の生活の苦労や願いの指摘		75	75	72	78	80	84	73	
	(2)	水を引くことができない理由の指摘		53	53	52	53	52	58	51	
	(3)	A	資料から読み取った情報の指摘		44	44	50	54	52	64	50
		B	資料から読み取った情報の指摘		43	43	32	40	39	49	36
	(4)	条件に該当するまとめの文の指摘	○	36	36	34	34	34	34	33	
⑤	(1)	条件に該当する八方位の指摘		63	63	70	64	62	66	64	
	(2)	条件に合うコースを選ぶ理由の説明		55	56	43	63	66	78	51	
	(3)	条件に該当する断面図の指摘	○	63	63	57	64	62	62	67	
⑥	(1)	①	県の平野の名称の指摘		70	69	78	75	72	79	77
		②	県の湖の名称の指摘		85	85	85	88	86	92	86
		③	県庁所在地の指摘		86	87	84	85	82	89	86
	(2)	資料から読み取った内容の指摘		43	43	50	38	34	48	38	
⑦	(1)	上越	上越の雨温図の指摘		49	48	60	49	51	56	44
		軽井沢	軽井沢の雨温図の指摘		34	34	44	31	31	32	29
	(2)	①	県の気候の特色の指摘	○	59	58	62	57	52	72	56
		②	県の気候の特色の指摘	○	63	63	65	62	55	75	63
		③	県の気候の特色の指摘	○	63	63	65	62	55	75	63
⑧	(1)	条件に該当しない国旗の指摘		74	74	76	73	77	73	67	
	(2)	①	日本の領土の範囲の指摘		59	58	62	60	58	64	58
		②	日本の領土の範囲の指摘		6	6	13	2	2	2	3
	(3)	日本と近隣の国々との位置関係の説明		67	67	72	70	70	76	68	
教科全体				63	63	64	64	63	69	61	

※備考欄の「○」は、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した問題。

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内			県全体	
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
84	85	83	75	91	84	90	84	80	84	86	73	83	86	74	84
89	89	88	89	90	91	94	88	90	88	89	83	91	91	89	89
83	84	77	84	82	87	88	84	87	83	84	76	85	85	83	85
75	75	78	76	76	78	82	78	75	71	69	76	74	74	73	75
57	59	48	53	60	57	58	60	56	56	56	55	55	57	44	56
79	80	83	70	84	83	85	85	82	81	82	77	76	76	78	80
80	79	82	84	80	81	81	81	80	77	77	76	79	81	74	80
83	82	84	84	89	85	86	80	87	80	81	78	81	81	81	83
73	72	70	78	73	74	81	65	74	64	66	56	70	69	71	71
74	75	65	72	76	71	73	66	73	74	78	61	75	76	72	74
52	53	48	48	51	53	53	52	53	49	52	41	52	53	50	52
47	46	47	45	51	50	53	46	50	39	40	38	47	48	39	47
41	39	42	43	46	45	47	45	43	37	37	35	41	42	40	42
35	36	28	37	34	37	43	36	34	29	29	29	34	34	32	35
63	63	63	64	63	66	74	61	63	51	50	54	58	60	52	62
55	53	64	54	59	66	67	67	64	38	40	30	48	48	45	55
60	61	59	62	58	65	67	68	63	56	55	57	58	58	58	61
73	73	70	74	73	75	75	74	74	65	65	67	70	70	69	71
87	88	85	84	87	88	93	80	88	81	81	82	84	84	84	85
81	80	86	83	80	83	84	83	81	76	76	73	79	79	78	82
40	38	43	41	49	38	39	34	39	34	31	42	31	31	35	38
46	49	35	46	41	50	54	51	46	40	39	43	46	47	45	47
30	29	30	32	33	31	33	33	28	27	29	20	30	31	26	31
59	58	53	61	65	63	66	63	60	48	48	49	54	55	53	58
61	60	55	63	67	64	66	65	62	54	52	60	58	58	57	61
72	73	63	72	75	74	77	80	71	65	64	71	70	70	68	72
59	59	58	61	60	60	63	59	58	53	52	54	55	55	59	58
3	3	3	4	4	5	7	4	5	3	3	3	4	4	2	4
66	66	63	68	67	68	72	72	65	58	59	54	63	64	59	66
62	62	60	62	64	65	67	64	63	57	58	56	60	61	58	62

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例

問題番号	通過率 (%)	主な誤答例(無答を含む) (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
④	(3)A	47 資料から読み取れない言葉を使って記述 (16.5) 資料にある言葉だが、適切に読み取れていない記述 (14.0) 無答 (6.0)
	(3)B	42 1888年の人口を記述 (32.0) 1885年の人口を記述 (12.0) 無答 (4.5)
	(4)	35 ア箒川から水を引き (35.0) イ10年の時間をかけて用水路が完成 (14.5) ウ村へ何回もうったえた (14.5)
⑤	(2)	55 等高線が短い・小さいなど適切な表現で記述していない (18.5) 理由に触れていない記述 (13.5) 等高線の本数が多い (6.5)
⑥	(2)	38 イ弘前市やつがる市は日本海に面している (43.0) ウ青森市には岩木山と八甲田山がある (15.0)
⑦	(1)上越	47 イ (21.0) ウ (18.5) エ (6.0)
	(1)軽井沢	31 エ (31.5) ウ (19.5) ア (5.5)
	(2)①②	58 八戸ーかわいた風 (13.5) 弘前ー雪が多く (5.0)
	(2)③④	61 弘前ーしめった風 (11.0)
⑧	(2)②	4 オ南緯20度 (39.5) カ南緯25度 (18.5) キ南緯35度 (13.5) ク南緯45度 (11.0)

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 ④(3)

○出題のねらい

「那須疎水ができるまでの年表」と「西那須野村の人口のうつりかわり」の、二つの資料から読み取った情報を関連付けて、適切な内容を指摘する問題である。

出題の意図は、令和3年度の分析において、文章資料・地図・年表などの複数の資料から読み取ったことを関連付けて考え、表現することに課題が見られたため、那須疎水ができるまでの出来事と人口の移り変わりを関連付けて考え、適切な内容を指摘する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、資料から読み取れない言葉を使った記述や、適切でない年の人口を記述する誤答が多かった。

課題として、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考え、表現する経験が不足していると考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、個別の資料の読み取りのみで終わるのではなく、複数の資料を扱い、それらを関連付けることで問題解決的な学習を進めていくことが必要である。また、資料から得られた情報を基に、学習課題に対する自分の考えをまとめ、表現する場面を設定することが大切である。

指導例

複数の資料から得られた情報を関連付け、自分の考えを表現させる指導

～単元名「きょう土の伝統・文化と先人たち」(第4学年)～

【指導の流れ】

複数の資料から読み取ったことを関連付けて考え、人々の生活の変化を文章でまとめさせる。

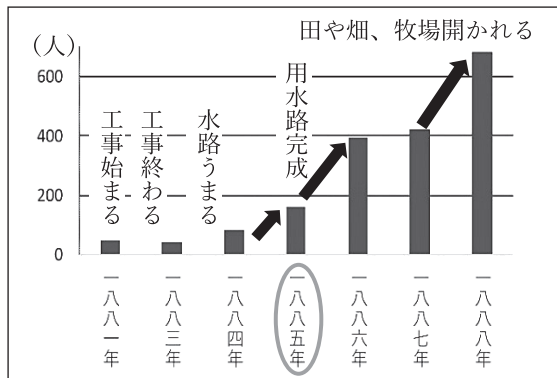
学習活動①

年表とグラフの二つの資料から分かることを読み取り、グラフに書き込む。



那須疎水の完成後、人々の生活はどのように変わったのでしょうか。まずは、那須野原にあった、西那須野村の人口のうつりかわりを見てみましょう。

資料1 西那須野村の人口のうつりかわり



資料2 那須疎水ができるまでの年表

年	おもなできごと
1880年	印南 文作と矢板 武が中心になり、県や国に飲み水用の水路建設を願い出て、みとめられる。
1881年	飲み水用の水路の工事が始まる。
1882年	飲み水用の水路の工事が終わる。
1883年	がけくずれやこう水により水路がうまる。
～	飲み水だけでなく、水田や農場でも利用できる水路の計画を立て、何回も東京にうったえに行く。
1884年	国から新しい用水路の工事がみとめられ、工事が始まる。そして、半年で用水路が完成する。
1885年	国から新しい用水路の工事がみとめられ、工事が始まる。そして、半年で用水路が完成する。
(その後)	多くの田や畑、牧場が開かれる。

1885年、1886年、1888年に急に人口が増えているね。

1885年から1886年を見ると、人口が2倍以上増えて、約400人になっています。

用水路が完成して水が手に入るようになったから住む人が増えたのかな。年表と合わせて見てみたいな。

いつ、用水路がどうなったかに注目して、以前使った年表と資料1を関連させて見ていきましょう。分かったことをグラフに書き込んでいきましょう。

飲み水用の水路は1881年に工事が始まり1882年に終わりました。

1885年に水田や農場でも利用できる新しい用水路が完成しました。

1885年に注目すると、用水路が完成した年に、人口が急に増えたことがわかります。やっぱり、人口が増えたことと、用水路は関係がありそうだね。

学習活動②

年表とグラフから読み取ったことを関連付けて、人々の生活がどのように変わったのか考える。



資料1と資料2から分かることを整理しましょう。そして、二つの資料を関連付けてどんなことが言えるか、グラフに書き込んだことも参考にして考えてみましょう。



資料1から

- ・1885年に急に人口が増えた
- ・1886年に人口がさらに2倍に増えた

関連付け

資料2から

- ・1885年に新しい用水路が完成
- ・その後、多くの田や畑、牧場が開かれた



西那須野村では、新しい用水路が完成した1885年から急に人口が増え始めました。その後、用水路の水を使い、多くの田や畑、牧場が開かれ、さらに人口が2倍に増えました。



二つの資料から分かったことをもとに、那須疎水の完成後、人々の生活はどのように変わったか、まとめてみましょう。

用水路が完成するまでは水が使えず、住みづらくて人々は困っていたと思います。でも、用水路が完成し、田や畑、牧場を作ることができるようになりました。水も手に入り、仕事もできるようになったので、生活がとてもよくなったのではないかと思います。



学習活動③

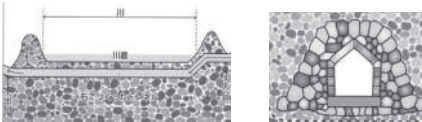
タブレット端末を使って、学習して分かったことをスライド(シート)にまとめる。



今日の学習で分かったことを、スライドにまとめていきましょう。

タブレット端末を使い、児童一人一人が分かったことを表現する機会を設定する。作成したスライドは、単元のまとめで学習問題について考える際、活用させる。
*スライドで作成することで、児童間の情報共有が容易になる。

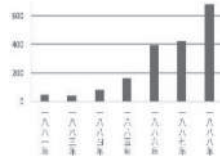
那須疎水の工事のくふう



川の底に「ふせこし」を作る
職人たちが集まり半年で完成!
※前時の例

那須疎水完成で村がにぎやかに

那須疎水で飲み水、水田や
農場でも水がたくさん使
えるようになった。
田畑や牧場が作られ



用水路完成で人口が2倍以上に増えた!

学習を終えるごとに、単元のまとめで使用できるスライドを作成し、蓄積していく。

ポイント

- ・資料の読み取りの際、何に着目すればよいか、「社会的事象の見方・考え方」の視点(空間軸【位置や空間的広がり】、時間軸【時期や時間的経過】、事象や人々の相互関係)を発問によって児童に伝え、資料を読み取る技能を身に付けさせる。
- ・複数の資料から読み取ったことを関連付けさせるために、資料から読み取ったことをもう一方の資料へ書き込ませる。
- ・学習課題に対する自分の考えをまとめ、表現させるために、学習のまとめをタブレット端末に蓄積させていく。

○課題の見られた問題 ⑧(2)

○出題のねらい

日本のまわりの国の様子を示した地図の緯線に着目し、日本の領土について適切な範囲を指摘する問題である。

出題の意図は、平成29年度や平成30年度の分析において、緯線や経線の用語の理解や、緯度と経度を活用し、距離の離れた国同士の位置関係を正確に捉える力に課題が見られたため、地図上の緯線に着目しながら緯度を読み取り、日本の領土の範囲を指摘する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、緯度を表す数値は読み取ることができるものの、「北緯」と「南緯」を適切に選択できない児童が多かった。

課題として、地図や地球儀の緯線や経線に着目し、我が国が世界のどこに位置しているか、領土はどの範囲なのかなど、調べたことを表現する経験が不足していると考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、各学年の目標や内容に合わせて、地図帳や地球儀を用いて調べたことを表現する活動を設定することが大切である。特に、第5学年の日本の国土の学習では、地図帳や地球儀を用いて、緯度や経度を使って主な国の位置や日本の領土の範囲を説明するなど、具体的な活動を通して丁寧に指導する必要がある。

指導例

緯度や経度を使い位置や範囲を表現することで、我が国の国土の様子について理解を深めさせる指導
～単元名「私たちの国土」(第5学年)～

【指導の流れ】

地図帳や地球儀の「緯線」と「経線」に着目して、世界の国々の位置や日本の国土の大まかな範囲を捉えさせる。

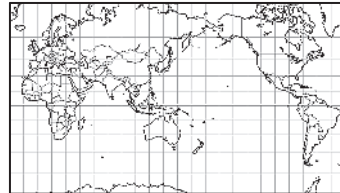
学習活動① 日本と同じ緯度や経度の国名について調べる。



地図帳や地球儀を使い、日本と世界の国々との位置の関係を見てみましょう。



日本は中国の東にあります。



地図では、距離が離れば正確な方位を表すことができないから、日本から遠く離れた国は、緯度や経度を使って位置の関係を説明したほうがよいよね。

普段使用している地図帳や地球儀を用意する



それでは、地図帳や地球儀を使って、日本と同じ経度や緯度にある国を調べましょう。



地図帳で調べると、日本には東経135度の経線が通っています。同じ経線が通っている国は、ロシアとオーストラリアです。

地球儀で調べたら、日本には北緯40度の緯線が通っています。同じ緯線が通っている国は、中国やアメリカ、スペインなどです。



日本は、中国やアメリカ、スペインと同じ緯度に位置していると言えるね。

緯度や経度を使うと、世界のどこにいても、位置を正しく説明できそうだね。



学習活動② 緯度と経度を使った国名当てクイズに取り組む。



日本は北緯40度、東経135度のところにありました。北緯60度、西経105度には、何という国があるでしょう。

世界地図で、北緯60度と西経105度が交わる場所を調べました。カナダです。



今度は、世界の国々のおよその緯度と経度を調べて、クイズを作って出し合ってみましょう。



南緯15度、西経45度にある国は、何という国でしょうか。

ブラジルです。でも、地図帳でブラジルを見ると、緯線や経線が何本か通っていました。



地図帳や地球儀を見ると、緯線や経線が複数通っている国がありますね。日本もその一つです。次は、緯線や経線に着目して、日本の領土の範囲を調べてみましょう。

学習活動③ 日本の領土の範囲を、緯度や経度で説明する。



日本の領土の範囲を調べましょう。日本の東西南北のはしはどこでしょうか。

東は「南鳥島」、西は「与那国島」、南は「沖ノ鳥島」、北は「択捉島」です。



日本の南北の範囲を、緯度を使って表しましょう。



択捉島は、45度の緯線のそばにあります。



日本は北半球にあるから、北緯45度です。



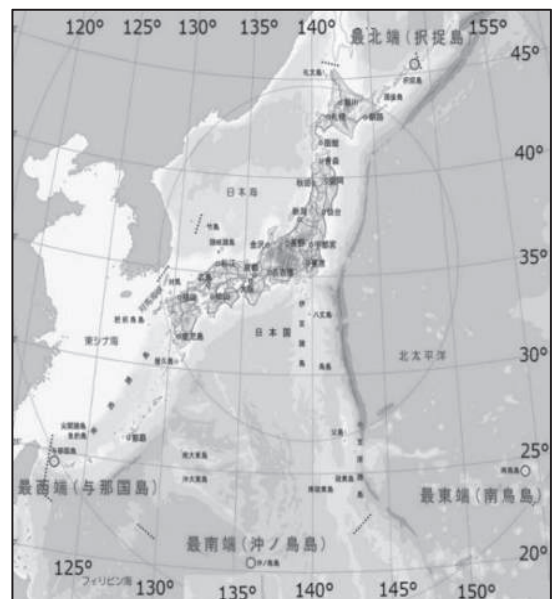
沖ノ鳥島は南のはしだけど、北半球だから北緯20度です。日本の南北の範囲は、北緯20度から北緯45度になります。



緯度を使って位置を表すときには、赤道より北か南かを考えて、北緯か南緯を付けて表しましょう。次は、東西の範囲を、経度を使って表しましょう。



日本を経度で表すときは東経を使わないといけないから、日本の東西の範囲は、大まかに見ると、東経120度から東経155度です。



【地理院地図より作成】

ポイント

- 日本を中心にした部分的な地図だけでは、2点間の方位や位置関係などを読み取らせることが難しいことから、世界全体を表した地図帳や地球儀をあわせて活用させる。
- 国の位置や範囲などを読み取る技能を身に付けさせるために、クイズなど児童に親しみやすい活動を授業に取り入れ、繰り返し緯度や経度を使って国の位置等を表現させる。
- 学年に応じた地図を教室に掲示したり、地球儀を身近に使えるよう教室に置いたりするなど、教室環境を工夫し、各学年の目標や内容に合わせて、地図帳や地球儀を繰り返し活用させる。